

CX週間展望 (3月7日～)

# 週間展望(3/7～3/13)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之

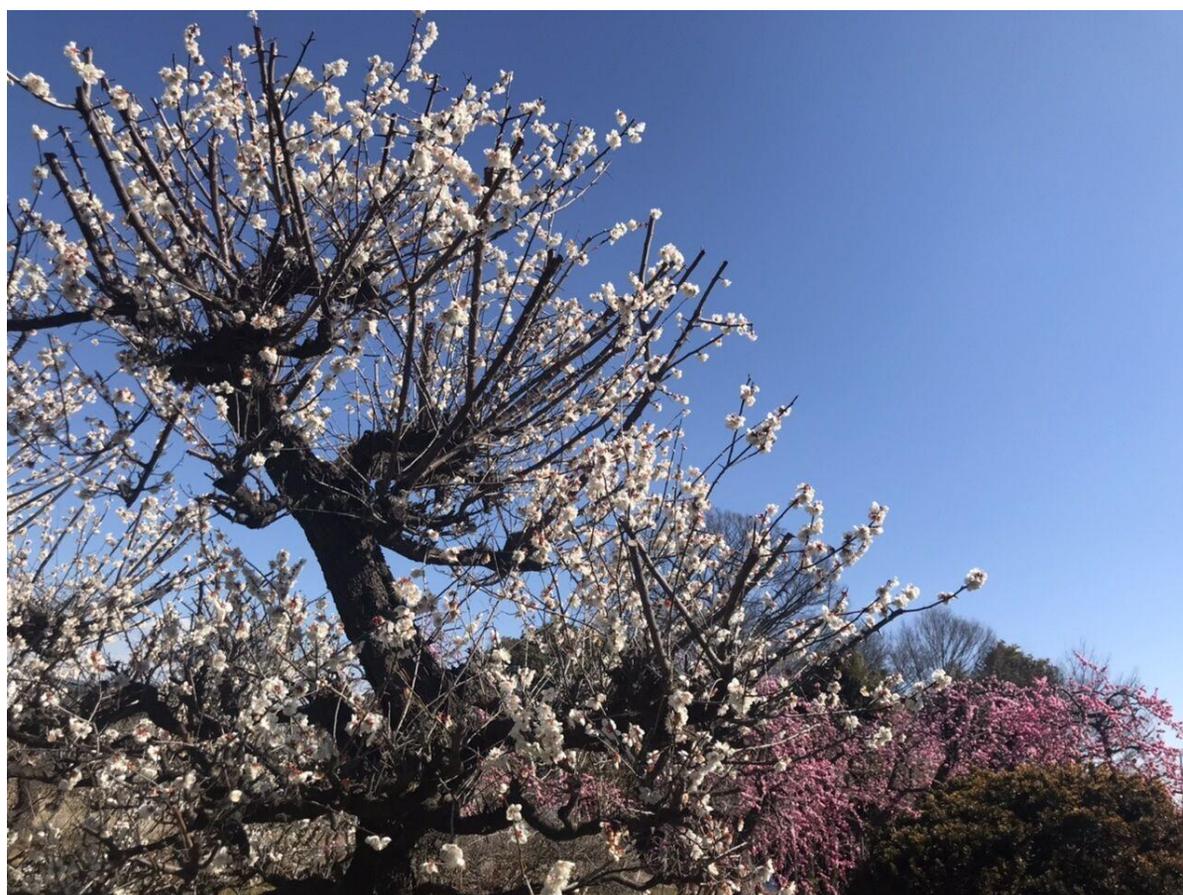


PHOTO by KIKUKAWA

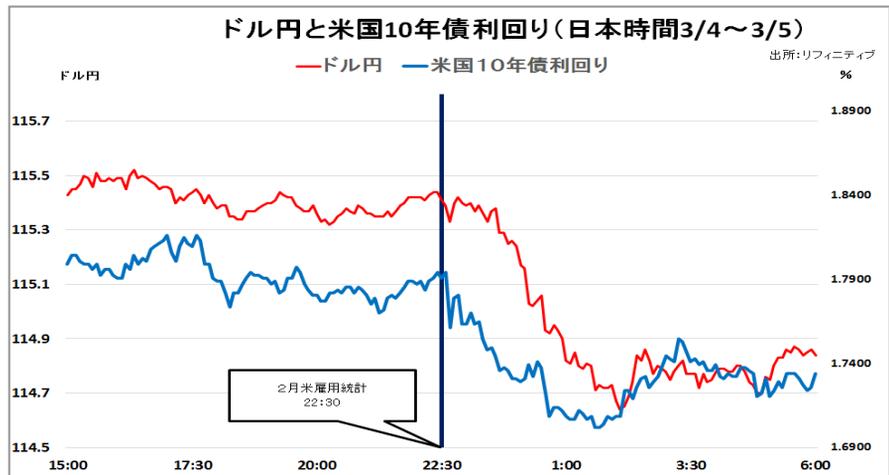
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7~3/13)

### ~ドル円~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「ウクライナ問題が収束してこない、大幅利上げは難しい」という見方が広がっており、雇用統計で強めの数字が出て、反応は限定的となる可能性も。2日と3日にパウエルFRB議長の議会証言。3月15~16日のFOMCで利上げが見込まれる中、ウクライナ情勢や、インフレ・利上げに対してどのような見解を打ち出すか注目される。ドル円の戻りも限定的か?」としたが、先週は、ウクライナ情勢の深刻化を受けて、ユーロが軟調に推移した。世界的にインフレ警戒が高まり、株式市場は不安定化している。パウエルFRB議長の議会証言では、3月の25bp利上げを明言し、今後の状況次第では50bp利上げの可能性を示唆した。一方、ウクライナ情勢を受けて、ECB年内利上げ開始観測は後退している。

#### 大幅利上げ観測後退

- 先週末のドル円はやや円高。朝方発表の2月の米雇用統計は、非農業部門の雇用者数の伸びが市場予想を上回った。ただ、ウクライナ情勢への警戒感が強く、米労働市場の回復を受けた円売り・ドル買いは限定的。ロシアによるウクライナへの軍事攻撃は激しさを増している中、紛争が長期化すれば世界景気を冷やすと懸念された。米株式相場が下落。米債券市場で長期金利が低下し、円買いドル売りに拍車をかけた。一方、ドルがユーロに対して買われたため、ドル円の下値も限定的。
- ユーロは対ドルで、20年5月以来のユーロ安水準を付けた。ロシアにエネルギー供給を依存する欧州経済の不透明感が強まり、ユーロ売りが加速した。
- CFTC建玉明細(3/1現在)によると大口投機玉は、68,732枚の売り越し。前週(63,187枚の売り越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7～3/13)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



### 【今週見通し・戦略】

- パウエルFRB議長が議会上院での証言で、地政学リスクの高まりを踏まえ3月のFOMCで大幅な利上げを見送る考えを示した事が、ドル円の上値抑制要因。
- 一方、ユーロが緊張増すウクライナと地理的に近く、ロシアにエネルギー供給を依存する欧州売りから底抜けした事は下値支持要因として意識されている。



### 基軸通貨体制への挑戦

- 今回のウクライナ侵攻は、米国の覇権体制に加えて、基軸通貨ドルに対する戦争でもある。クリミア半島併合後、ロシアは追加制裁に備え、ステーブルコインのテザーや、中国版(SWIFT)などの利用へ軸を移しつつある。ロシアは独自の「SPFS」(System for Transfer of Financial Messages)も持っており、全取引の約20%がこれを利用しているとも報じられている。22年1月にロシアが保有する外貨準備・金は約6300億ドルと15年1月の1.7倍増。全体の約20%を金が占め、比率は2倍に拡大した。一方、17年に4割を超えていたドル比率は21年に約16%まで低下。貿易では主に中国との間でユーロ決済を増やし、13年に輸出総額の約8割だったドル決済を50%台に減少している。
- 過去、米国の基軸通貨体制に臨んだイラクのフセイン大統領などは、最終的には米国に排除された。今回、中国の習近平主席、イランのハメネイ最高指導者らと共にロシアのプーチン大統領が仕掛けた基軸通貨に対する戦争の第一幕とも言えるかもしれない。
- ドル円は、Y字型から三角保合い放れ待ちに移行中。

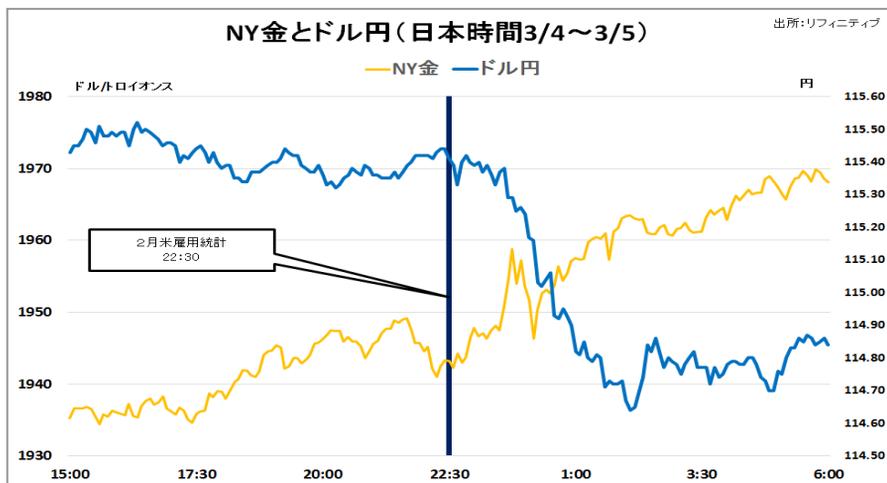
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7~3/13)

### ~ 貴金属市場 (金: GOLD) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

#### 初押し買うべし

- 先週レポートで《~前略)。過去の紛争時と異なり、今回は地政学リスク要因だけで上昇しているのではなく、「インフレ」という大きな要因が背後に控えている。FRBの政策舵取りは、非常に困難であり、インフレリスクとFRBの政策ミスリスクの両方に対するヘッジとして、地政学リスクの一服感や、原油安に追随する安値は、「悪い金利上昇」懸念を背景に、再び買い拾われると見る。
- ~中略)。相場格言にある「初押し買うべし」の展開となりそうだとしたが、先週は、ウクライナ情勢の深刻化や原油急騰を受けて押し目を買われた。
- 先週末のNY金(4月限)は続伸した。ロシア軍がウクライナ南東部にある欧州最大級のザポリージャ原子力発電所を占拠した。ロシア国防省は4日の発表で、ザポリージャ原発の火災について、ウクライナの「破壊工作集団」が放火したと強調し、ロシア軍の関与を否定。露軍は2月28日から同原発を「管理下」に置いており、4日未明にウクライナ側から襲撃を受け交戦したと主張している。ウクライナ情勢悪化が供給網の混乱につながり、一段のインフレを招くとの見方からインフレヘッジの買いも入った。
- 2月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数は前月比67万8000人増と市場予想(44万人程度の増加)を上回った。平均時給の伸び率は前月から鈍化し、市場予想を下回った。米金融政策の見直しを変えるほどのサプライズはなく、市場の関心はウクライナ情勢に集中している。
- CFTC建玉明細(3/1現在)によると大口投機玉は、257,622枚の買い越し。前週(243,148枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7～3/13)

### ～ 貴金属市場 (金 : GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



#### 【今週見通し・戦略】

短期調整リスクがあるものの、押し目は買い直されそう

- 2月米雇用統計で、非農業部門の雇用者数は前月比67万8000人増と市場予想(44万人程度の増加)を上回った。一方、平均時給の伸び率は前月から鈍化し、市場予想を下回った。米金融政策の見通しを変えるほどのサプライズはなく、市場の関心はウクライナ情勢に集中している。
- 金同様、ロシアのウクライナ侵攻開始で2月24日に100ドル台へ急伸後、反落した原油相場は、既に2月24日の上ヒゲ高値を突破、踏み上げも巻き込み続伸。
- 国際銀行間通信協会(SWIFT)がロシアの主要銀行を排除したため、2日時点で日量700万バレル程度(世界供給の8%相当)のロシア産とロシア経由のカザフスタン産の原油・石油製品の輸出が止まっている。
- 例年「2月安(南米産の収穫期の下げ圧力)」で下落傾向が確認される穀物市場も、小麦中心に大幅高となっており、今年の米国の天候相場は低在庫率の中、上値リスクが高い状況が続くだろう。
- オシレーター系指標は、短期的な買われ過ぎ感を示すも、地政学リスクを背景とした「有事の金」買だけでなく、スタグフレーション(物価高と景気悪化の同時進行)や、インフレリスクとFRBの政策ミスリスクの両方に対するヘッジとして、「悪い金利上昇」懸念を背景に、調整安では「安全資産」としての買いが入りそうだ。
- 株式市場を揺るがした「ロシア軍がウクライナの原子力発電所を砲撃」とのヘッドラインについては、双方のプロパガンダ合戦の中で真偽は不明だが、偶発的な事故を除き、原発を攻撃して誰がメリットを受け、誰がデメリットを受けるのかを考えると、答えは見えるかもしれない。不確かなヘッドラインに左右される不安定な状況が続く間は、金買いの流れは継続するだろう。
- ロシアのデフォルト懸念も金にとっては買い材料視されそう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7~3/13)

### ~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「世界の半導体大手各社は、素材の在庫積み上げや調達が多様化を進めたことで、ロシアのウクライナ侵攻による供給網の混乱は限定的にとどまると予想しているが、ウクライナは米国の半導体製造に使われているネオンの90%以上を供給。ロシアは米国で使われるパラジウムの35%を提供している。事態の長期化や、制裁合戦となると景気にも悪影響を与えかねず、要注意。」としたが、先週の白金相場は、西側諸国の対ロ制裁強化や原油急騰、金堅調を受けて押し目を買われた。プラチナは西側諸国の対ロ制裁強化や原油急騰、金堅調が支援要因になった。一方、株価の下落が上値を抑えた。

#### 金上昇VS株安

- ウクライナとロシアが2回目の協議を行い、停戦合意には至らなかったが、協議を継続することで合意。両国は、民間人を避難させるための「人道回廊」の設置で合意した。3回目の協議は数日以内に行われる予定。
- 先週のNY白金(4月限)は、大幅続伸。ウクライナの原子力発電所の火災を受けて原油や金が急伸したことにつれ高となった。株安を受けて上げ一服となる場面もあったが、押し目は買われた。
- ロシア軍がウクライナ南東部にある欧州最大級のザポリージャ原子力発電所を占拠した。火災が発生したが、重要施設に影響はなかった。
- CFTC建玉明細(3/1現在)によると大口投機玉は、16,890枚の買い越し。前週(17,540枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7～3/13)

### ～ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ～

調査課

菊川 弘之

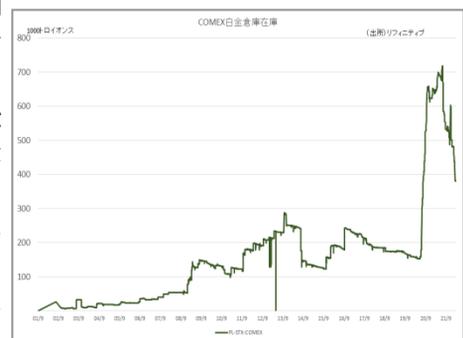


#### 【今週見通し・戦略】

- ボリンジャーバンドでは、「白金-金」の軸は、「金買い・白金売り」継続。中心線(21MA)を上値抵抗帯として、バンドウォーク継続。
- 金と共に2月24日の上ヒゲ高値を試す流れ。価格帯別出来高の厚い200日移動平均線が下値支持帯に変化するのか、これまで通り、上値抵抗として機能するのかが焦点。



- 「World Platinum Investment Council (WPIC)」によると、中国のプラチナ輸入は需要背景が明確な量を大きく超えて増え続け、2021年には「超過分と実需不明分」合わせて43.5トンとなり、世界のプラチナ余剰を遥かに超えていた。NYMEXのプラチナ在庫流出は現物市場の品不足を反映し、特に中国の実需以上のプラチナ輸入で、裁定取引の好機を生み出している。



- リスク回避の流れの強まりから、金の堅調は支援要因も、株価の弱さが上値抑制要因。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7~3/13)

### ~ ゴムRSS3号先物 ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「今週は米雇用統計などのマクロ経済指標も予定されているが、ゴムにとっては、ウクライナ情勢の行方と、同時に行われている米欧とイランとの核合意復帰協議の行方に伴う原油市場の行方にも注意したい。米国世論調査ではウクライナ問題への積極的な関与を望む声は2割台にとどまる一方、インフレに対する不満は高く、中間選挙の争点にもなっている。戦略備蓄(SPR)放出などに加えて、季節的にも北半球の暖房油需要がピークアウトする時間帯に向かっていく。」としたが、先週のRSS3号は、ウィンタリング(落葉期=減産期)の影響から供給がタイトになっている中、ウクライナ情勢の緊迫化に伴う原油高を好感する一方、株安を嫌気して高値圏での保合いとなっている。
- 全国生ゴム営業倉庫は、2月10日現在11,269トン(前旬比93トン減)。2月上旬の入出庫は入庫881トン、出庫974トン。

#### 【今週見通し・戦略】

- 3月の月間騰落傾向は、12月~2月と比べると、圧倒的に売り優勢の時間帯。タイなどの生産地は、ウィンタリング(落葉期=減産期)の影響から供給がタイトになっているものの、ウィンタリングは、例年4月のソクラン(水祭り)までで、マーケットは減産期明けを先取りすることが、3月の弱気優勢の背景だ。
- 原油価格が一時的に100-110ドル程度の上昇であれば、世界経済は耐えられるとの観測からゴムは原油高に追随する可能性はあるものの、150ドル超になるような状況となった場合は、景気後退や株安を受けて、原油との相関は薄れると思われる。

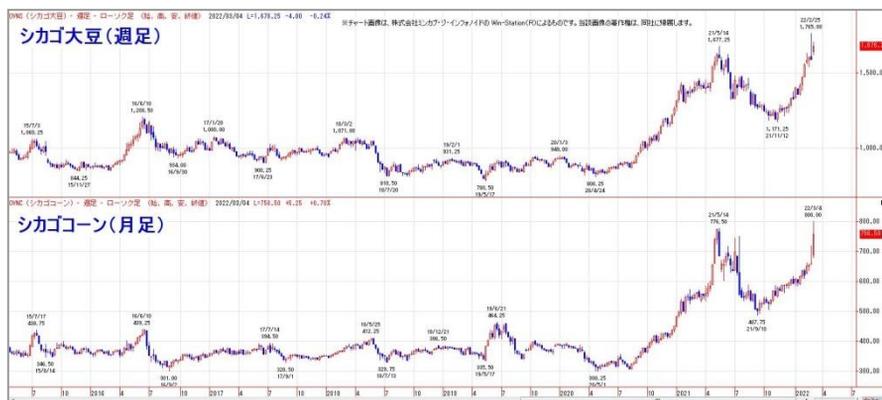
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7~3/13)

### ~ 穀物市場 (大豆・コーン) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「高温乾燥により生産量が事前予想を下回っている南米からの供給増加が期待できないだけに、今後も米国産の下値は根強い需要が支えそうだ」としたが、先週のシカゴ穀物は、堅調推移が継続。
- 先週末のシカゴ穀物は、大豆が小麦の騰勢に支援される場面もあったが、週末の手じまい売り圧力も強く、高値からは大きく崩れる展開。コーンは、ウクライナやロシアからの輸出減少思惑で、9日に発表される米農務省需給報告で輸出が上方修正、期末在庫が下方修正、世界生産高の下方修正が予想されていることが材料視され上昇。
- CFTC建玉明細(3/1現在)によると大豆の大口投機玉は、218,907枚の買い越し。前週(226,464枚の買い越し)から縮小。コーンが460,938枚の買い越し。前週(451,742枚の買い越し)から拡大。
- 週間純輸輸出成約高(2月24日までの週)
  - 大豆: 224万3000トン(事前予想レンジ: 70万~150万トン)
  - コーン: 70万7900トン(事前予想レンジ: 50万~120万トン)

#### 【今週見通し・戦略】

- ウクライナ情勢に加えて、徐々に今年の米国作付動向に市場の関心が移行する。米農務省(USDA)はアウトLOOKフォーラムにおいて今春の大豆作付面積は前年度(8720万エーカー)を上回る8800万エーカー、一方の生産量は前年度の44億3500万Buから44億9000万Buに増加するとの見通し。
- コーン作付面積は前年度の9340万エーカーから9200万エーカーに縮小する見通し。生産量は前年度の151億1500万Buから152億5000万Buに拡大予測。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7~3/13)

### ~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



#### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「価格帯別出来高の厚い90ドル~95ドルが上値抵抗帯に変化するの否か」に加え、「ウクライナ情勢とイランの核合意協議の行方、雇用統計を受けた株価動向などが注目要因」としたが、先週のNY原油(4月限)は、ロシアとウクライナが停戦交渉を再開する意向と伝わり、情勢を見極めたい向きの利益確定売りも出たが、ロシア産の原油や天然ガスの供給が滞るとの見方から100ドルを突破。ロシアの原油生産量は日量1000万バレル超で、この規模の供給が完全に途絶した場合、その他の産油国が増産して埋め合わせることは不可能。

#### 11年ぶりの高値更新

- 週末のNY原油(4月限)は、反発。米国が対ロ追加制裁として、ロシア産原油の輸入禁止を検討していることが報じられたことで一段高となった。イラン核合意の復活が近いとの見方から伸び悩む場面もあったが、「核合意の復活で日量130万バレルのイラン産原油が世界市場に流入しても、ロシア産原油の輸出減少を補うのは不十分」との見方から売りは続かず。ロシアの原油輸出量は日量400万~500万バレルとされる。
- 国際銀行間通信協会(SWIFT)がロシアの主要銀行を排除したため、欧米諸国はロシア産原油・石油製品の購入を停止し始めた。ロイター通信によると、2日時点で日量700万バレル程度のロシア産とロシア経由のカザフスタン産の原油・石油製品の輸出が止まり、これは世界供給の8%に相当する。
- また今週サウジアラビアが発表したアジア向け公式販売価格(OSP)の前月比での上げ幅が過去最大となっていることも支援材料。
- CFTC建玉明細(3/1現在)によると大口投機玉は、前週(339,041枚の買い越し。前週(348,093枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 週間展望(3/7～3/13)

### ～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之



#### 【今週見通し・戦略】

- ロシアのウクライナ侵攻開始で2月24日に100ドル台へ急伸後、反落した原油相場は、既に2月24日の上ヒゲ高値を突破、踏み上げも巻き込み、一時116ドル台まで続伸。前週末には、ロシアがウクライナ中部の欧州最大級のザポリージャ原子力発電所を掌握した中、米国が対ロ追加制裁として、ロシア産原油の輸入禁止を検討していることが報じられたことで一段高となった。
- イラン核合意の復活が近いとの見方から伸び悩む場面もあったが、「核合意の復活で日量130万バレル前後のイラン産原油が世界市場に流入しても、ロシア産原油の輸出減少(ロシアの原油輸出量は日量400万～500万バレル)を補うのは不十分」との見方から下値は堅い。既に、国際銀行間通信協会(SWIFT)がロシアの主要銀行を排除したため、2日時点で日量700万バレル程度(世界供給の8%相当)のロシア産とロシア経由のカザフスタン産の原油・石油製品の輸出が止まっている。
- 昨夏のアフガニスタンからの米軍撤退以降、より鮮明になった「世界の警察官」を放棄した米国の内向き化と共に、世界各地で国際秩序の変更を試す動きが頻発してくることも確実の様相だ。前週末には、北朝鮮が弾道ミサイルを発射。いずれ、米国を射程とした中長距離ミサイル実験や核実験を再開して揺さぶりをかけるのは確実の様相だ。イランも原油高騰の中、より有利な条件を引き出そうとするだろう。
- 株式市場を揺るがした「ロシア軍がウクライナの原子力発電所を砲撃」とのヘッドラインについては、双方のプロパガンダ合戦の中で真偽は不明だが偶発的な事故を除き原発を攻撃して誰がメリットを受け、誰がデメリットを受けるのかを考えると、答えは見えるかもしれない。ゼレンスキー大統領が採ったウクライナ国民を盾にした(18～60歳男性の出国禁止し軍に動員)戦術は、のちの歴史で大きく非難される。
- 52週移動平均線との乖離率が2000年以降最高水準となってきた。テクニカル的には、いつ調整が入ってもおかしくない状況。ファンダメンタルズからは、ウクライナ情勢・イラン核協議の行方次第。18日のオプション満期で流れが変わる可能性も。

テクニカル的には、  
いつ調整が入っても  
おかしくない

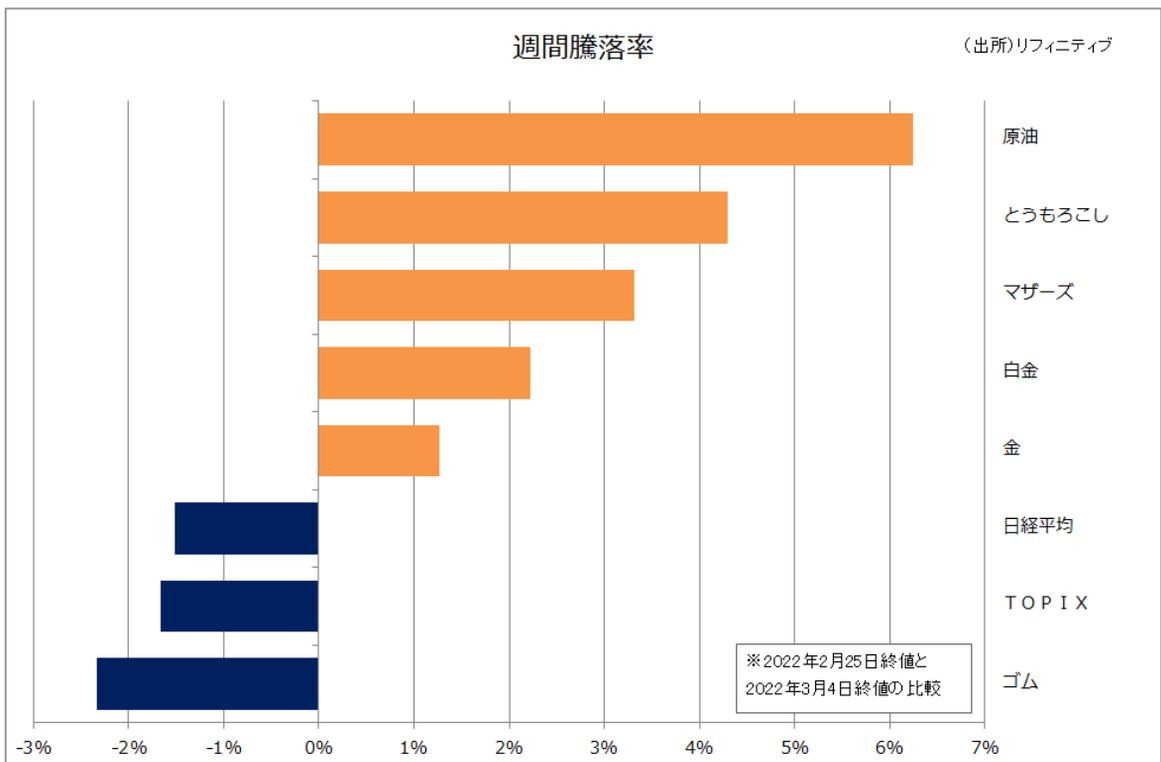
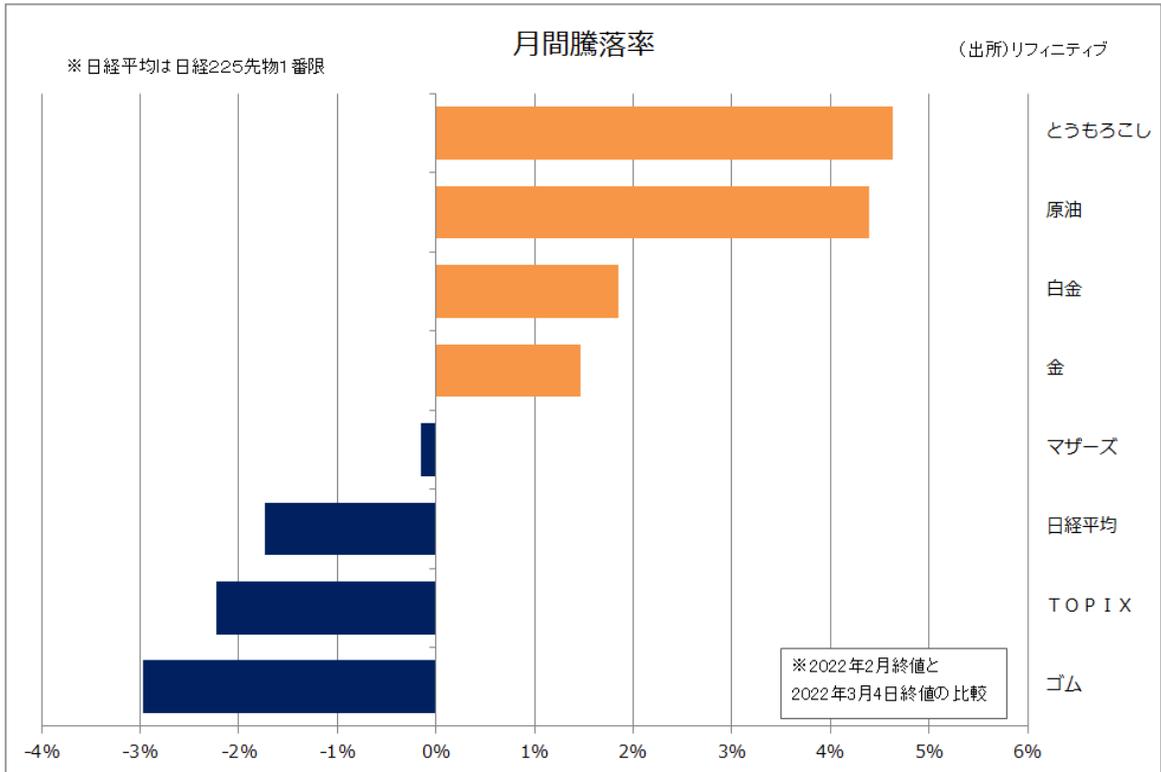
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

**【週間行事予定(3/7~3/13)】**

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	
3月7日(月)	12:00	中国	2月	輸出(前年比)	20.9	
	12:00	中国	2月	輸入(前年比)	19.5%	
	12:00	中国	2月	貿易収支(USD)	94.46(十億)	
	16:00	ドイツ	1月	鉱工業受注(前月比)	2.8%	
	16:00	ドイツ	1月	小売売上高(前月比)実質	-5.5%	
	18:30	ユーロ圏	3月	ユーロ圏投資家センチメント指数	16.6	
3月8日(火)	5:00	米国	1月	消費者信用残高	18.90(十億)	
	8:50	日本	1月	経常収支	-370.8(十億)	
	16:00	ドイツ	1月	鉱工業生産(前月比)	-0.3%	
	19:00	ユーロ圏	Q4	国内総生産(GDP)改定値(前期比)	0.3%	
	22:30	米国	1月	貿易収支(USD)	-80.7(十億)	
3月9日(水)	0:00	米国	1月	卸売在庫(前月比)	0.8%	
	8:50	日本	Q4	国内総生産(GDP)2次速報値(前期比)	1.3%	
	8:50	日本	Q4	国内総生産(GDP)設備投資2次速報値(前期比)	0.4%	
	10:30	中国	2月	生産者物価指数(PPI)(前年比)	9.1%	
	10:30	中国	2月	消費者物価指数(CPI)(前年比)	0.9%	
	10:30	中国	2月	消費者物価指数(CPI)(前月比)	0.4%	
3月10日(木)	0:00	米国	1月	JOLTS 求人件数	10.925(百万)	
	2:00	米国	---	USDA需給報告		
	8:50	日本	2月	企業物価指数(前月比)	0.6%	
	9:01	英国	2月	RICS 住宅価格指数	74	
	16:00	英国	1月	貿易収支(GBP)	-12.534(十億)	
	21:45	ユーロ圏	3月	ECB リファイナンス金利	0.00%	
	21:45	ユーロ圏	3月	ECB 預金金利	-0.50%	
	22:30	米国	2月	コア消費者物価指数(CPI)(前年比)原数値	6.0%	
	22:30	米国	2月	消費者物価指数(CPI)(前年比)原数値	7.5%	
	22:30	米国	2月28日, 週次	新規失業保険申請件数		
	22:30	米国	2月21日, 週次	継続失業保険受給総数		
	---	---	---	ECB理事会		
			中国	2月	社会融資総量	6,170.00(十億)
			中国	2月	マネーサプライ M2(前年比)	9.8%
			中国	2月	人民元建て新規融資	3,980.0(十億)
		中国	2月	人民元建て融資残高(前年比)	11.5%	
3月11日(金)	8:30	日本	1月	全世帯消費支出(前年比)	-0.2%	
	16:00	ドイツ	2月	消費者物価指数(CPI)改定値(前月比)	0.9%	
	16:00	ドイツ	2月	消費者物価指数(CPI)改定値(前年比)	5.1%	
	16:00	ドイツ	2月	EU 基準消費者物価指数(HICP)改定値(前年比)	5.5%	
	16:00	英国	1月	国内総生産(GDP)予測値(前年比)	6.0%	
	16:00	英国	1月	鉱工業生産(前年比)	0.4%	
	16:00	英国	1月	製造業生産(前年比)	1.3%	
	5:30	米国	前週分	CFTC建玉明細		
	0:00	米国	3月	ミンガン大 消費者信頼感指数 速報値	62.8	
3月12日(土)						
3月13日(日)						

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【騰落率(月間・週間)】

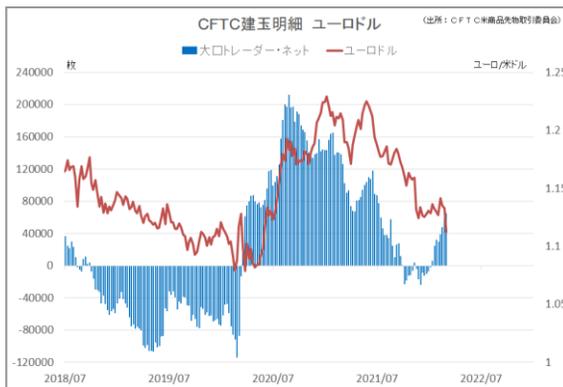


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

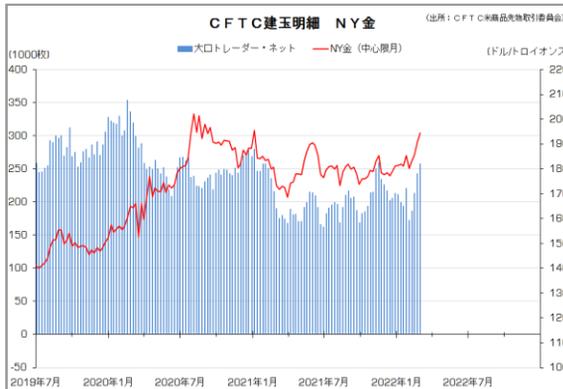
## 【CFTC建玉明細】



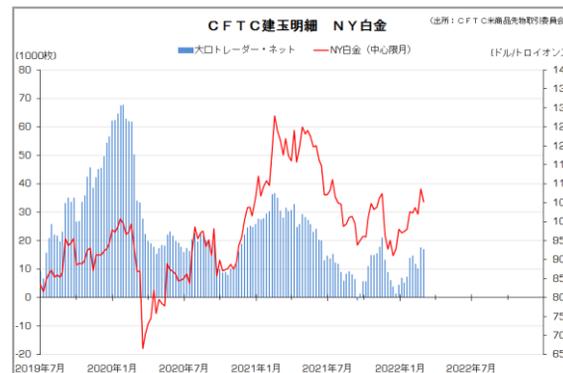
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	14,510	75,150	-60,640	114.71
2022/2/8	15,692	74,840	-59,148	115.54
2022/2/15	10,425	76,587	-66,162	115.62
2022/2/22	10,976	74,163	-63,187	115.08
2022/3/1	14,665	83,397	-68,732	114.89
前週比	3,689	9,234	-5,545	-0.19



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	213,563	183,847	29,716	1.1269
2022/2/8	218,973	180,131	38,842	1.1414
2022/2/15	217,899	170,318	47,581	1.1356
2022/2/22	214,195	154,889	59,306	1.1325
2022/3/1	228,385	163,446	64,939	1.1126
前週比	14,190	8,557	5,633	-0.0199



NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	275,994	103,852	172,142	1801.5
2022/2/8	279,559	92,853	186,706	1827.9
2022/2/15	313,269	99,656	213,613	1856.2
2022/2/22	350,096	106,948	243,148	1907.4
2022/3/1	354,177	96,555	257,622	1943.8
前週比	4,081	-10,393	14,474	36.4



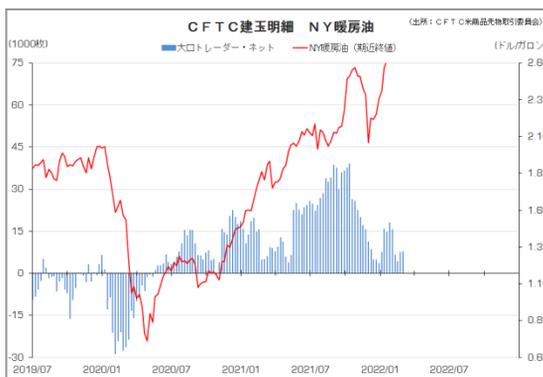
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	28,171	13,590	14,581	1023.2
2022/2/8	28,134	16,375	11,759	1036.3
2022/2/15	28,217	18,085	10,132	1020.4
2022/2/22	32,462	14,922	17,540	1086
2022/3/1	33,902	17,012	16,890	1051.9
前週比	1,440	2,090	-650	-34.1

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

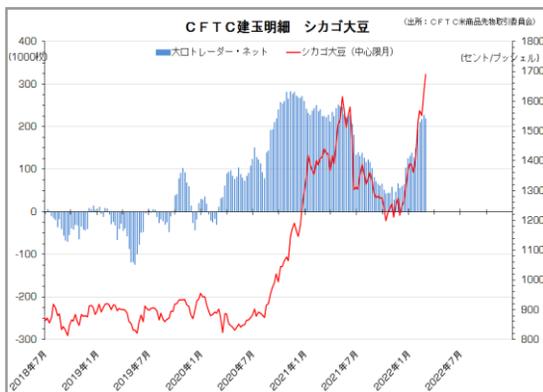
## 【CFTC建玉明細】



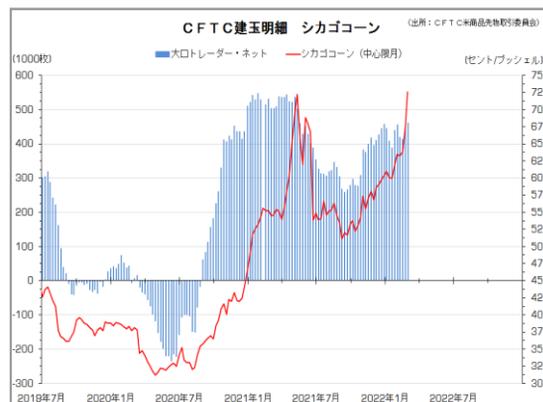
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	487,606	118,702	368,904	88.2
2022/2/8	480,560	117,177	363,383	89.36
2022/2/15	458,819	110,726	348,093	92.07
2022/2/22	442,102	103,061	339,041	91.91
2022/3/1	465,365	96,702	368,663	103.41
前週比	23,263	-6,359	29,622	11.50



日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	64,794	49,111	15,683	2.7412
2022/2/8	59,340	52,885	6,455	2.7926
2022/2/15	58,952	54,791	4,161	2.7643
2022/2/22	59,571	52,147	7,424	2.7905
2022/3/1	51,397	43,761	7,636	3.1511
前週比	-8,174	-8,386	212	0.3606



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	235,972	42,599	193,373	1528.50
2022/2/8	255,224	45,494	209,730	1569.00
2022/2/15	261,666	44,934	216,732	1551.25
2022/2/22	274,012	47,548	226,464	1635.00
2022/3/1	264,899	45,992	218,907	1690.00
前週比	-9,113	-1,556	-7,557	55.00



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/1	547,596	92,376	455,220	634.75
2022/2/8	519,855	100,253	419,602	632.25
2022/2/15	510,734	96,242	414,492	638.00
2022/2/22	536,898	85,156	451,742	674.75
2022/3/1	531,633	70,695	460,938	725.75
前週比	-5,265	-14,461	9,196	51.00

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【金・白金ETF】

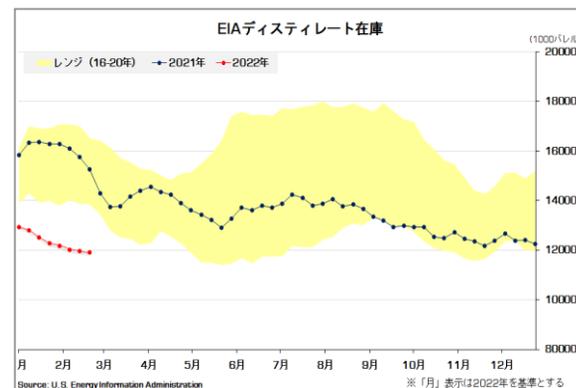
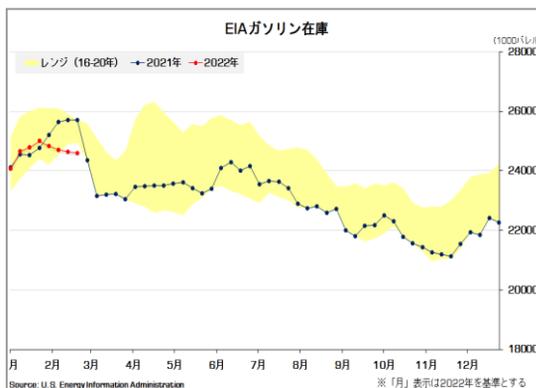
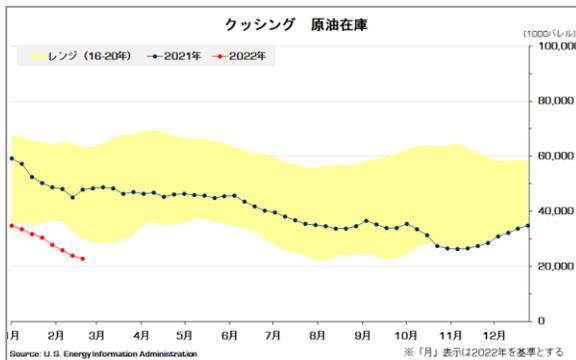
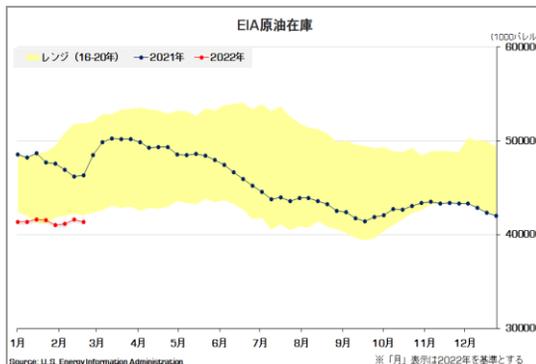


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/3/4	1054.28	+4.06
2022/3/3	1050.22	±0
2022/3/2	1050.22	+7.84
2022/3/1	1042.38	+13.36
2022/2/28	1029.02	+2.03
2022/2/25	1026.99	-2.33
2022/2/24	1029.32	±0



日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/3/4	77,868.76	-116.51
2022/3/3	77,985.28	-0.12
2022/3/2	77,985.40	-199.72
2022/3/1	78,185.12	+95.08
2022/2/28	78,090.03	+31.10
2022/2/25	78,058.93	-0.16
2022/2/24	78,059.09	-0.22

## 【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

---

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。